

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R3入学 現3年生	国語			数学			英語		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)
	60.2	50.2	58.0	49.6	36.5	34.0	49.6	49.6	33.0
	(0.87)	(0.89)	(0.85)	(0.95)	(0.91)	(0.72)	(0.90)	(0.90)	(0.85)
R5正答率の全国比			0.83		0.67			0.72	

◎1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和5年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

・「自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」で肯定的な回答が42.3%、否定的な回答が57.7%と半数以上が発表に対する苦手意識がある。また、分かりやすく伝える意識が低いことや工夫した伝え方が習得できてないと推測できる。

[国語]

- ・ 基本的知識を問う問題で、繰り返し指導を行った内容では定着がみられた。
- ・ 読み解いたことをもとに、自分の考えを述べる問題では課題がみられた。
- ・ 前後の文脈を読み、判断する問題にも課題が見られた。

[数学]

- ・ 記述式問題は全国平均より正答率が低かったが、高い問題もあった。また無回答率の割合は0%で全ての問題にチャレンジしようとする姿がみられた。
- ・ 短答式の中でも知識応用型問題では課題がみられた。

[英語]

- ・ 記述式は半数以上が無回答の問題があった。
- ・ 自分の考えを書くこと、話すことに特に課題がある。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

[国語]

- ・ 単元全体の振り返りを文章で書かせる。
- ・ 語彙指導を繰り返し行う。
- ・ 文章全体の評価をする授業を組み立てる。

[数学]

- ・ ドリル的な学習を少し増やすとともに、定期テストで学習状況調査の過去問題等を活用していくことも検討する。
- ・ 宿題プリントを、生徒側にとって「①こまめに、②計画的に、③1人学びがしやすい手立てを入れる」ことを心がけて作成・実施する。
- ・ 学習内容によっては、積極的に学び直しの機会を設定する。

[英語]

- ・ 自分の考えをまとめて表現（書く）機会を増やす。
- ・ 学んだ表現をアウトプットするパフォーマンステストを設定する。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・ 授業以外「川中タイム」（週に1回15分）での小グループでの発表の機会を設定し、聞き手と話し手の両方の役割を意識させ、工夫した活動に取り組みさせる。「川中タイム」の活動を重ねることで、発表時の意識や経験の積み重ねによる自信を生徒につけさせ、人に分かりやすく、工夫して伝える技術を習得できると考える。